

ご利用のてびき 2018

博物館活用事例集①④



学校見学

出前授業

貸出キット

職場体験

イベント参加

子ども学芸員

etc.



企画交流課

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL. 055-261-2631 FAX. 055-261-2632

<http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

目 次

1 博物館を学校で活用する

- p. 1 山梨県立博物館について
- p. 2 どのような活用方法がある？
- p. 3 博物館に行ってみる（観覧しての学習）
- p. 11 博物館に行ってみる（庭の活用）
- p. 13 貸出教材（ミュージアム・キット）を活用してみる
- p. 18 出前授業を活用してみる
- p. 23 職場体験・インターンシップの実習

2 各種博物館事業について

- p. 24 かいじあむティーチャーズクラブについて
- p. 29 子ども学芸員事業のご案内
- p. 30 「大好きな山梨を描こう」絵画作品応募について
- p. 31 定期イベントのご案内
- p. 32 平成30年度 企画展・シンボル展のご案内

3 実践事例の紹介

- p. 33 ティーチャーズクラブの先生方より
「小学校社会科での「幕絵」の教材化について」
甲府市立国母小学校 教諭 雨宮康治
- p. 39 「笛吹高等学校『博学連携』活動について」
山梨県立笛吹高等学校 教諭 古屋寛往
- p. 42 山梨県立博物館の活用法

山梨県立博物館について

(博物館の紹介)



山梨県立博物館は、子どもから高齢者までが世代を超えて交流し、歴史と文化を学ぶ場、そして情報発信の場として、山梨県笛吹市に、平成17年(2005)10月15日に開館し、今年開館13周年を迎えます。

本博物館は、基本テーマである「山梨の自然と人」を活動の基本におき、山梨の豊かな自然と人々がどのように向き合ってきたのかという歴史を総合的に調査研究し、それらの成果をこれからの地域振興の重要な指針として提示できるような博物館を目指したいと考えています。

(博学連携)

山梨県立博物館の目指す大きなテーマの1つに『博学連携』があります。博物館と学校とが望ましい形で連携、協力を図りながら、子どもたちの教育を進めていこうという取り組みです。開館以来、子どもたちが郷土の歴史に興味を持ち、郷土への愛着を抱くことを目指して、学校と博物館とが協力して、博物館の「もの」や「ひと」や「情報」を積極的に活用することに努めてきています。



平成23・24年度と笛吹市教育委員会の協力のもと、笛吹市の小中学校と連携しモデル事業を行いました。また、笛吹高等学校との博学連携として、「博物館を利用した郷土研究」や博物館の「古代の畠」による農作業などを行っています。『かいじあむティーチャーズクラブ』も会員数が約3300名で、多くの先生方が入会しており、教育活動に生かしております。

どのような活用方法がある？

①博物館に児童生徒を連れて行く

平成 29 年度には、のべ小学校 56 校、中学校 30 校、県立学校 17 校、その他 14 校合計 117 校あまりが来館し、見学や学習を行いました。

☆具体的な利用例

- ・遠足、県内巡りなどの学校行事
- ・社会科見学、教科等での校外学習
- ・支援学級における生活単元学習
- ・職場体験学習（インターンシップ）
- ・親子活動（PTA 活動など）



②博物館の「もの」を使ってみる

13ページ

学校への貸出教材〔ミュージアム・キット〕をご用意しています。

③博物館の「ひと」を使ってみる

18ページ

博物館職員が学校におじゃまして〔出前授業〕を行っています。社会科や総合的な学習の時間、博物館見学の事前学習、親子学習会、PTA 研修会、教職員研修会などにご利用いただいています。費用はかかりません。先生方のねらいに応じた内容で可能な限り対応致しますので、ぜひご相談ください。

④まず先生が博物館に親しんでみる

24ページ

→ [2 ティーチャーズクラブについて](#)をご覧ください

⑤研究会や校内研などによる先生方の視察

博物館では先生方の研修による視察を受け入れています。企画交流課までお問い合わせください。

※その他ご不明な点などがありましたら、お電話等でお問い合わせください。

（企画交流課 TEL 055-262-1278）

博物館に行ってみる（観覧しての学習）

1 学校見学予約票をFAX送信後、電話でお問い合わせください。

4 ページの予約票をコピーするか、当館ホームページ上で予約票をダウンロードして、必要事項を記入の上、当館にFAX送信後、電話をしてください。（055-262-1278・教育主事）その際、見学予定日が開館日かどうか、**12 ページのカレンダー**でご確認ください。（火曜休館の他、臨時休館があります。）

2 下見においでください。

原則として、下見を実施してください。先生方の指導意図を聞いて、見学メニューを決めたり、見学上の注意事項を確認したりします。希望があれば先生方へのガイドも行います。

3 『観覧料等免除申請書』をご提出ください。

5 ページの申請書をコピーするか、当館ホームページ上で申請書をダウンロードし、**6 ページの見本**を参照して、必要事項を記入の上、職印の押印をし、郵送または、下見の際に直接ご提出ください。（提出期限は、実施日の2週間前までです。）→先生方の観覧料を免除するためです。

※引率者がティーチャースクラブ会員の場合は、申請書は必要ありません。

4 来館日

1時間40分間が標準的な滞在時間です。標準的な見学メニューは、「オリエンテーション（5分）→常設展ガイド（30分）→ワークシート（30分）→体験学習コーナー（30分）→終わりのあいさつ（5分）」です。この他に、企画展見学・オリジナル映画（地方病・水害・戦争：各10～15分）などのメニューがあります。なお、**ワークシート**については、当館ホームページにて公開していますので、各校でご用意ください。（**7～10 ページの資料**をご参照ください。）

5 博物館を利用してのご感想、ご意見などをお寄せください。

来館時にアンケート用紙をお渡しします。現場の先生方の意見や感想を、今後の運営に生かしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

6 その他

- 昼食場所は、原則として当館の芝生広場となっております。雨天時等の昼食場所については、下見の折にご相談ください。
- 当館の近隣施設としては、「ぶどう園（ぶどう狩り）・金川の森・万力公園・フルーツ公園・和菓子工場やワイン工場（3年）・やまなし伝統工芸館（4年）・峡東浄化センター（4年）釈迦堂遺跡博物館（6年）」などがあります。

山梨県立博物館 学校見学予約票

| | |
|----|------|
| 課長 | 教育主事 |
| | |

| | | | | |
|------|----|---|---|---|
| 送信月日 | 平成 | 年 | 月 | 日 |
|------|----|---|---|---|

| | |
|-----|----------|
| 対応者 | 教育主事 () |
|-----|----------|

*FAX を送信してから、お電話での連絡をお願いします。FAX：055-261-2632 TEL:055-262-1278

*太線の中のみ記入してください。

*山梨県内の各学校は、観覧料免除の申請書を2週間前までに提出してください。(郵送可)

(引率者全員がティーチャーズクラブ会員の場合は、申請書は必要ありません。)

| | | | |
|-------|--------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 下見の予定 | 月 日 () 時 分頃 | <input type="checkbox"/> 後日連絡あり | <input type="checkbox"/> 下見なし |
|-------|--------------|---------------------------------|-------------------------------|

*下見の来館は 16:00 までをお願いします。*土日とも可能ですが、対応できない場合もございます。

| | | | |
|-----------------------------|--|---------------|-------------|
| *県外の学校は県名から 市町村名 | | | |
| *「市町村立」等をつけない 学校名 | | | |
| *市外局番から 電話番号 | | FAX 番号 | |
| 担当の先生 | 先生 | 学校長名 | 校長先生 |
| 実施月日 | *休館日：火曜日（祝日の場合は開館、翌日休）、祝日の翌日（土曜日が祝日の場合の日曜日は開館）、その他臨時休館日がございます。 平成 年 月 日 () → 延期の場合 月 日 () | | |
| 観覧時間 | *昼食時間等は含めず、実質的な見学可能時間を記入して下さい。 午前・午後 時 分 ~ 午前・午後 時 分 | | |
| 雨天時 | 雨天決行 ・ 雨天中止 ・ 雨天延期 ・ 雨天のみ利用 | | |
| 学年 | 年、 | 年、 | 年 学級数計 クラス |
| 児童・生徒数 | 名、 | 名、 | 名 計 名 |
| 引率者の人数 | 名 *カメラマンや保護者等も引率者に含まれます。 | | |
| 時数の扱い | *当てはまるものに○をつけてください。 学校行事 ・ 総合 ・ 教科 () | | |
| 交通機関 | バス () 台 ・ 徒歩 ・ 路線バス ・ タクシー ・ 自転車 | | |
| 昼食について | *晴天時の昼食場所は、屋外芝生広場です。 当館での昼食の予定 ある・ない 昼食の時間 時 分 ~ 時 分 | | |
| 雨天時の昼食場所 | 生涯学習室 (1/2) ・ 体験学習室 ・ ウッドデッキ ・ レストランテラス ・ 教育センター | | |

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 下見打合せ <input type="checkbox"/> 電話打合せ 月 日 () 対応者 () 見学内容確認 済 <input type="checkbox"/> | オリエンテーション(5分) |
| | ガイド(30分) |
| | ワークシート(30分)※当館ホームページをご参照ください。(初ジ・初展・中ジ・中展・パンフ) |
| | 映画(戦争15分・水害12分・地方病12分) |
| | 自由見学(体験工房)(分) |
| | 企画展(展)(30分) |
| | その他「紙芝居20分・紙工作30分・お庭ガイド30分 |
| 終わりのあいさつ(5分) | |

| | | | | |
|---|---------------------------------|------|---|---|
| | | 受付番号 | 第 | 号 |
| <p>観 覧 料 等 免 除 申 請 書</p> <p>年 月 日</p> <p>山梨県立博物館館長 殿</p> <p>申請者 住 所</p> <p>氏 名 印</p> <p>連絡先</p> <p>観覧料 次のとおり 利用料 の免除を受けたいので、山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則 使用料 第10条第2項の規定により申請します。</p> | | | | |
| 申請の理由 | 山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則第10条第1項第 号該当 | | | |
| 利用内容 | | | | |
| 免除を受けようとする額 | | | | |
| 摘要 | | | | |

- 注 1 申請の理由の欄には、免除の根拠となる規則の該当号と、当該規定に該当する具体的な理由を記載してください。
- 2 利用内容の欄には、観覧、利用又は使用の別及び利用又は使用の日時その他観覧料等の免除の対象となる対象が特定できる内容を記載してください。

| | | |
|------|---|---|
| 受付番号 | 第 | 号 |
|------|---|---|

観 覧 料 等 免 除 申 請 書

平成27年 5 月 1 日

山梨県立博物館館長 殿

〒406-0801

申請者 住 所 笛吹市御坂町成田1501-1

氏 名 県博小学校

校長 県博太郎



連絡先 055-261-2631 (fax 2632)

(担当 山梨花子)

観覧料

次のとおり 利用料 の免除を受けたいので、山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則
使用料

第10条第2項の規定により申請します。

| | |
|-------------|--|
| 申請の理由 | 山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則第10条第1項第 号該当 教育課程に基づく教育活動としての観覧。(春の遠足など) |
| 利用内容 | 観覧日時 平成27年5月22日(金) 午前11時～午後2時 引率教員数 4人 (大型バス2台) |
| 免除を受けようとする額 | 全 額 |
| 摘 要 | 晴天の場合は屋外で、雨天の場合は室内で 昼食を取らせて頂きたい。 |

注 1 申請の理由の欄には、免除の根拠となる規則の該当号と、当該規定に該当する具体的な理由を記載してください。

2 利用内容の欄には、観覧、利用又は使用の別及び利用又は使用の日時その他観覧料等の免除の対象となる対象が特定できる内容を記載してください。

かいじあむワークシート① 初級 ジオラマ編

小 年 名 前

ジオラマ(人形)は、江戸時代(約200年前)の甲斐の国(山梨県)の人々の生活の様子を表したものです。

このワークシートの①～⑮のジオラマをさがし、見つけられたら、()に○をつけ、よく説明を読みましよう。(そこが一番、大事です!)

見つけられた問題は、**全15問中** _____ 問 でした!



① 薪 ()
電気やガスや石油のない時代は、山に木を採りに行き、燃料にしています。



② 肥桶をかつぐ人 ()
昔は、「うんち」や「おしっこ」を肥料にしており、肥桶で運んでいました。



③ 洗濯をする人 ()
洗濯機も洗剤もない時代は、川で洗濯をしていました。



④ 井戸 ()
昔は水道がなかったので、井戸を掘って、地下水をくみ上げていました。



⑤ お風呂 ()
家の外にあり、木の湯船に木桶で水をくみ、薪を燃やして、お湯をわかしました。



⑥ 田植えをしている人 ()
5月ごろ早乙女と呼ばれる女性が唄を唄いながら共同作業で行いました。



⑦ 水車小屋 ()
水の力を利用して、杵を動かし、米や麦やそばの実などを粉にしました。



⑧ 天秤棒をかついでいる人 ()
物を運ぶ道具です。両側でバランスを取りました。



⑨ 背負子をしょっている人 ()
背負子とは、リュックサックのように背中で荷物を背負う道具です。



⑩ 肥だめ ()
肥料用の「うんち」や「おしっこ」を池のような場所にためておきました。



⑪ 狐 ()
村境のような薄気味悪いところは、狐に化かされると言われていました。(「しっぽ」が出ているよ!)



⑫ 蓑と笠をつけている人 ()
雨ガッパのない時代は、蓑と笠で雨をしのぎました。



⑬ 綿の木 ()
綿の実の中で、種を守る役割をしているのが綿です。紡いで糸を作りました。



⑭ 紙を作っている人 ()
和紙は「楮」という木の皮を原料にして作られていました。



⑮ 火の見ぼし ()
火事が起こった時、登って鐘を鳴らし、人々に知らせました。最初に戻って、自己採点しよう!

※ おまけの問題 次のものをさがしましょう。①犬5匹 ②猫3匹 ③猿2匹 ④とんぼ1匹 ⑤蛇1匹 ⑥うなぎ3匹

かいじあむワークシート② 初級 展示編

小 年 名前

山梨県立博物館には、昔の物がいっぱいあります。それぞれの問題の右側に縦書きで書いてあるのが、コーナー番号と、コーナー名ですので、立て看板の赤い矢印に従って進みましょう。①～⑮の展示物をさがし、見つけられたら、()に○をつけ、よく説明を読みましょう。(そこが一番大事です！)

見つけられた問題は、**全15問中** 問 でした！



① 自然の森の中で

① 縄文土器 ()
木の実を煮炊きしたり、保存したりするために使いました。今から、4500年くらい前のものです。



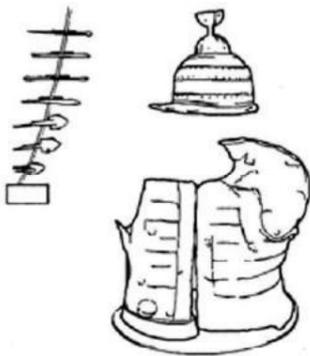
② 甲斐の誕生

② 鬼瓦 ()
1250前くらいのお寺の屋根につけられていました。魔よけのために、こわい顔をしています。



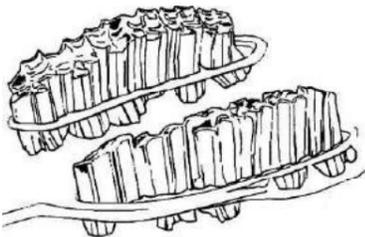
② 甲斐の誕生

③ 木簡(木の札) ()
紙が貴重品だった時代は、木に字を書いて荷札などに使いました。



③ 甲斐の黒駒

④ 鎧・兜 ()
1500年前ころの身分の高い人のお墓から出てきた、鉄の鎧や兜です。



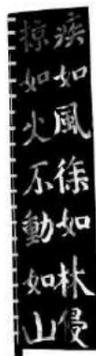
③ 甲斐の黒駒

⑤ 馬の歯 ()
1600年前ころ、馬は中国から伝わりました。大きさは今のポニーくらいでした。



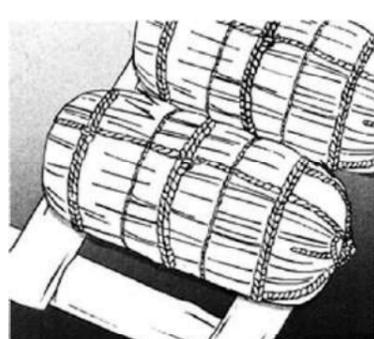
④ 水に取り組む

⑥ お祭りで使う人形 ()
洪水が来ないようにお祈りするお祭りで使われます。お祭りの中で、人形をあやつって踊りを演じます。



⑥ 甲斐を駆ける武士たち

⑦ 孫子の旗 ()
風林火山の旗とも呼ばれます。武田信玄の旗印でした。
裏面に続く →



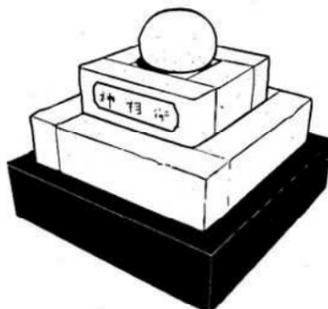
⑦ 川を彩る高瀬舟

⑧ 米俵 ()
米俵1俵は約60kgです。大人の人が食べる、5ヶ月分のお米が入っていました。



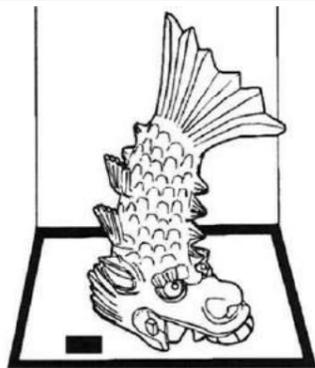
⑮ 里に暮らす

⑨ 馬のわらじ ()
稲わらを編んで作った馬の靴です。



⑮ 里に暮らす

⑩ 道祖神 ()
村境や道を災いから守る神様です。主に小正月の際に、お祭りが行われます。



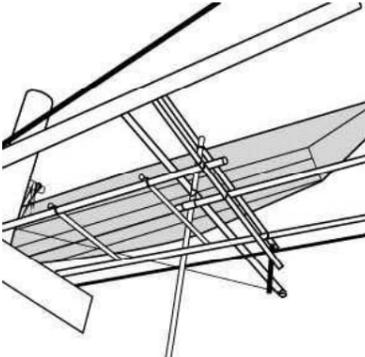
⑯ 城下町の賑わい

⑪ 金の鯨瓦 ()
甲府城の城跡から発掘されました。鯨は海の生き物で、火事を防ぐおまじないの役目をしていました。



⑯ 明治40年の大水害

⑫ 蓄音機 ()
今のCDプレーヤーのような音楽をかける機械です。「レコード」というものをのせて音楽を聞きました。



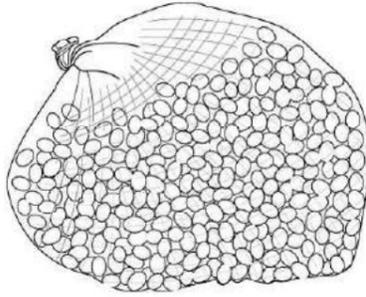
⑯ 明治40年の大水害

⑬ 舟 ()
水害に備えて屋根の下に舟をつけた家もありました。実際の洪水の時には避難のために使いました。



体験工房 保存の現場

⑭ お蔵 ()
家の宝物などを火事や泥棒などから守るための、厚い土壁の建物です。



体験工房 重さの現場

⑮ 繭 ()
「蚕」という蛾の幼虫が糸を吐いて作ります。絹の原料です。最初に戻って、自己採点しよう！

なまえ 名前

ジオラマ（人形）は、江戸時代（約200年前）の甲斐の国（山梨県）の人々の生活の様子を表したものです。ワークシートの説明をよく読んで、次の表にあるジオラマをさがしてみましょう。

| 場所 | 問題番号 | 次のものをさがしてみましょう。 | 見つけられたら ⇨ | ○ | |
|--------------------------------|------|---|--|---|--|
| ム | 1 | かやぶき屋根の家 「茅」という草で屋根を作っていました。 | | | |
| | 2 | 薪 電気やガスや石油のない時代は、山に木を採りに行き燃料にしていました。 | | | |
| | 3 | 肥桶 昔は、「うんち」や「おしっこ」を肥料にしており、木の桶で運んでいました。 | | | |
| | 4 | 屋敷墓 お寺ではなく、個人の家の敷地にある、その家の先祖がまつられた墓です。 | | | |
| | 5 | 洗濯をする人 洗濯機も洗剤もない時代は、川で洗濯をしていました。 | | | |
| | 6 | 井戸 昔は水道がなかったので、井戸を掘って、地下水をくみ上げていました。 | | | |
| | ラ | 7 | お風呂 家の外にあり、木の湯船に木桶で水をくみ、薪でお湯をわかしました。 | | |
| | | 8 | 屋敷神 家の守り神として、石や木で造られた小さなお社にまつられた神様です。 | | |
| | | 9 | 炭俵 暖房や煮炊きの燃料となる炭を、「わら」でくるんで保管しておきました。 | | |
| | | 10 | 筵 稲わらなどを編んで作った敷物で、いろいろな目的に使いました。 | | |
| ノ | 11 | 煙草を吸っている人 昔は「煙管」という道具を使ってたばこを吸いました。 | | | |
| | 12 | 馬 田をたがやしたり、荷物を運んだり、人が乗ったりするのに、馬を使いました。 | | | |
| | 13 | 田植え 5月ごろ早乙女と呼ばれる女性が唄を唄いながら共同作業で行いました。 | | | |
| | 14 | 水車小屋 水の力を利用して、杵を動かし、米や麦やそばの実などを粉にしました。 | | | |
| | 15 | 天秤棒 物を運ぶ道具です。両側でバランスを取りました。 | | | |
| | 16 | 背負子をしょっている人 リュックサックのように背中で荷物を背負う道具です。 | | | |
| | ラ | 17 | 肥だめ 肥料用の「うんち」や「おしっこ」を池のような場所にためておきました。 | | |
| | | 18 | 狐 村境のような薄気味悪いところでは、狐に化かされると言われていました。 | | |
| | | 19 | 蓑と笠をつけている人 雨ガッパのない時代は、蓑と笠で雨をしのぎました。 | | |
| | | 20 | 綿の木 綿の実の中で種を守る役割をしているのが綿です。紡いで糸を作りました。 | | |
| ふね | 21 | 高瀬舟 富士川でお米や塩を運ぶのに使われた、底の浅い、細長い舟です。 | | | |
| ヤマ | 22 | 紙を作っている人 和紙は「楮」という木の皮を原料にして作られていました。 | | | |
| | 23 | 筏に乗っている人 山で伐った木は筏に組んで運ばれました。 | | | |
| | 24 | 金を掘っている人 金は山奥の金山に穴を掘って、掘り出しました。 | | | |
| | 城下町 | 25 | 道祖神祭りの様子 甲府城下町では、小正月の道祖神祭りが盛大に行われました。 | | |
| 26 | | 初売りの様子 甲府城下町の正月月初売りは、夜中2時からにぎわっていました。 | | | |
| 27 | | 提灯 明かりの道具で、和紙と竹と木できており、中にろうそくを立てました。 | | | |
| 28 | | 門松 正月に家の入口に立てる飾りですが、竹を添える場合が多くあります。 | | | |
| 29 | | 火の見ばしご 火事が起こった時、登って鐘を鳴らし、人々に知らせました。 | | | |
| 30 | | 高札場 との様のおふれが書かれた木の札です。今で言えば伝言板です。 | | | |
| 問題は全部で30問です。いくつ、自分で見つけられたかな？ → | | | | | |

※ おまけの問題

次のものをさがしましょう。①犬5匹 ②猫3匹 ③猿2匹 ④とんぼ1匹 ⑤蛇1匹 ⑥うなぎ3匹

なまえ 名前

やまなしけんりつはくぶつかん 山梨県立博物館には、昔の物がいっぱいあります。立て看板の赤い矢印に従って進み、コーナー番号をヒントに、ワークシートの説明をよく読んで、次の表にある物をさがしてみましょう。

見つけられたら ↓

| コーナー番号 | 次のものをさがしてみましょう。(赤い矢印に沿って行くと見つかります) | ○ |
|--------------------------------|--|---|
| 1 | 縄文土器 木の実を煮炊きたり、保存したりするために使いました。 | |
| 2 | 1250年前ごろのお寺の鬼瓦 甲斐国分寺というお寺の屋根についていました。 | |
| 2 | 甲斐の国のはんこ 今から1300年前ごろ、正式な文書に押されました。 | |
| 2 | 木簡(木の札) 紙が貴重品だった時代は、木に字を書いて荷札に使いました。 | |
| 3 | 1500年前ごろの鎧・兜 偉い人の墓から鉄の鎧や兜などが出土しました。 | |
| 3 | 1600年前ごろの馬の歯 馬は中国から伝わり、ポニーのような大きさでした。 | |
| 4 | 700年前ごろの堤防 檜の木を編み合わせ、土手が削られるのを防ぎました。 | |
| 4 | お祭りで使う人形 洪水が来ないようにお祈りするお祭りで使われます。 | |
| 6 | 武田信玄の肖像画 晴信と名乗っていた、若き日の信玄本人の肖像画です。 | |
| 6 | 楯無鎧 武田家の家宝の鎧で、菅田天神社の本物は国宝に指定されています。 | |
| 6 | 孫子の旗 風林火山の旗とも呼ばれます。信玄本陣の旗印として用いられました。 | |
| 6 | 川中島の合戦の屏風絵図 有名な信玄、謙信の一騎打ちをさがしてみましょう。 | |
| 7 | 米俵 米俵1俵は約60kgです。大人5ヶ月分のお米が入っていました。 | |
| 8 | 中国の昔のお金 400年前程までは日本でも中国のお金が使われていました。 | |
| 9 | 幕絵 甲府の城下町の道祖神祭りの時、祭りを華やかにするために使われました。 | |
| 11 | 甲府駅のフラットホーム 木造でした。「かふふ」とは何でしょう? | |
| 11 | 機関車の写真 中央線が開通したころは、煙をはく蒸気機関車でした。 | |
| 12 | 甲州金 信玄の時代に金山の開発が進み、甲州金という金貨が造られました。 | |
| 12 | 大きな鋸 チェーンソーがない時代、大きな鋸で大木を切り出しました。 | |
| 15 | 馬のわらじ 稲わらを編んで作ったぞうりのようなもので、雪道ではかせました。 | |
| 15 | 道祖神 村境や道を災いから守る神様です。小正月にはお祭りが行われます。 | |
| 16 | 甲府城下絵図 全国的にも大規模な城で、別名「舞鶴城」とも呼ばれていました。 | |
| 16 | 甲府城の金の鯨瓦 甲府城の城跡から発掘されました。 | |
| 17 | 絹糸 「蚕」という蛾の幼虫が蛹になる時に作る繭から糸を取り出し作ります。 | |
| 19 | 蓄音機 今のCDプレーヤーのような音楽をかける機械です。 | |
| 19 | 洪水の時、避難に使った舟 水害に備えて屋根の下に舟をつるした家もありました。 | |
| 20 | 戦争時代の爆弾 66年前、日本とアメリカが戦争をした時、アメリカ軍の飛行機が日本全国(山梨にも)に「焼夷弾」という火事を起こさせる爆弾を落としました。 | |
| 20 | 戦争時代の学校の机・椅子 今の机・椅子と比べてみましょう。 | |
| 保存 | お蔵 家の宝物などを火事や泥棒、光や熱から守るための、厚い土壁の建物です。 | |
| 重さ | 繭 「蚕」という蛾の幼虫が糸をはいて作る白い殻のような物で絹の原料です。 | |
| 問題は全部で30問です。いくつ、自分で見つけられたかな? → | | |

博物館に行ってみる（庭の活用）

● 県立博物館には広い庭を有しています。学校利用では見学前後にお弁当を食べる等、楽しく過ごしています。また、庭の木々や植物を活用した学習活動を行う学校もあります。

- ・屋外にもトイレ、水飲み場等が設置してあります。また、あずま屋もありますので、ご利用ください。
- ・芝生の上なども自由にお使いください。ただしボールや遊具等の持ち込みはご遠慮ください。



【博物館の庭について】

約160種類、4万本の植栽が庭を彩っています。江戸時代以前より山梨県にあった植物を中心に植えてあります。昔から植物は自然環境や人間の生活に密接に結びついていました。季節ごとに変化する木々、植物にも目を向けてみてください。また庭の一角には畑があり、山梨ゆかりの作物を育てています。

『甲州八珍果』や季節に応じた観察活動、また展示との関わりなど、博物館での活動のひとつにご活用ください。





2018年度 かいじあむカレンダー

1 →開館日(午前9:00～午後5:00 最終入場は4:30)

2 →閉館日

3 →臨時開館日(" ")

4 →臨時閉館日

年間開館日303日(休館日62日)

4月 卯月 April

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

昭和の日 振替休日

3/17～5/14 「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」

5月 皐月 May

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

憲法記念日 みどりの日 こどもの日

5/26～6/25 「山梨の明治-新しい時代の幕開け」

6月 水無月 June

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

7月 文月 July

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

海の日

7/14～9/3 「誕生50周年 リカちゃん展」

8月 葉月 August

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

山の日

臨時

9月 長月 September

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

敬老の日

秋分の日 振替休日

10月 神無月 October

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

体育の日

10/13～12/3 「文字が語る 古代甲斐国」

11月 霜月 November

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

文化の日

臨時

秋分の日 臨時

12月 師走 December

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

天皇誕生日 振替休日

臨時 臨時 臨時

2019 1月 睦月 January

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

元旦

成人の日

臨時

1/12～2/25 「『木喰上人作木彫佛』-身延の木喰さん、世に出るその最初-」

2月 如月 February

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | |

情人の日

3月 弥生 March

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

春分の日 臨時

3/16～5/13 「県都甲府の500年」

貸出教材（ミュージアム・キット）を活用してみる

1. 電話で予約状況を確認し、仮予約をしてください。

すでに予約が入っている場合等、お断りすることがあります。仮予約は、貸し出し予定日の3か月前からおこなえます。

2 「借用申請書」をご提出ください。

○申請書を、当館ホームページ上でダウンロードし、必要事項をご記入の上、郵便、ファックスで送付してください。

〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1 山梨県立博物館 企画交流課
ファックス 055-261-2632

※引き取りのための来館時間を電話などでお知らせください。

★3. ミュージアム・キットをご活用ください。★

4. 終了後、ご返却ください。

期日までにご返却ください。その際、同梱の資料活用報告書(様式3)→(17ページ)にご記入の上、一緒にご返却ください。

授業案、授業で使ったワークシート等がありましたら、ご提供ください。

■その他

○費用は一切かかりません。

(但し、宅配便等を利用する場合は、送料のご負担をお願いします。)

○試着できるキットは身長150cmサイズでつくられていますが、和服ですのでかなり融通がききます。ただし、鎧兜(よろいかぶと)についてはもう少し小さいサイズです。

○キット全部もしくは一部をなくしてしまったり、壊してしまった場合、ただちにご連絡ください。

【甲斐国関係の古代木簡レプリカセット】

文字、寸法、風合い、キズまでもが、本物そっくりに複製された資料です。博物館展示用複製資料と同じ規格で作ってあります。展示室では見られない裏面に描かれた文字や絵まで手にとって見るすることができます。（解説資料付）



【石臼（いしうす）】

もちろん実際に使用できます。教材用として使用していますので、食用にはご遠慮頂いております。

（※昔の道具体験の出前授業も行います。）

【昔の暮らし電子写真集DVD】

内田宏氏の撮影による昭和30年代から40年代の農村の生活に関する写真です。当時の養蚕、農作業、暮らしぶりに関する写真が納められています。



昭和30年 養蚕



昭和30年 石臼

【博物館関連書籍】

博物館図録や研究紀要，過去に開催した特別展などの図録等を貸し出しします。

貸し出し可能な書籍

- 常設展示案内
- 風林火山
- やまなしはじめて物語
- 祈りのかたち—甲斐の信仰—
- 北斎と広重ふたりの富嶽三十六景
- 甲州食べもの紀行
- 信玄堤（リーフレット）等 他多数貸出可能。





【戦国時代キット】

戦国時代の鎧兜，太刀，火縄銃によるキット。鎧兜は試着することができます。



【江戸時代キット】

江戸時代の武士の服装(袴)，太刀(大小)，町人の服装(男女各1)，寺子屋本によるキット。武士の服装，町人の服装は試着することができます。



【旅姿キット】

菅笠(男女各1),旅の服装,柳行李によるキットです。旅の服装は試着することができます。



【オリジナル歴史紙芝居】（※平成23年度より追加されました。）

①「武田信玄 ～風の如く、火の如く～」



第1話 誕生～青年期 父と子

第2話

家督相続 若き甲斐国主の日々

第3話 川中島篇 VS謙信

②「小さな親善大使 青い目の人形」



※青い目の人形の

紙芝居DVDもあります。

③「江戸時代 奮起一発！ 大工の仕事」

④「高度成長期 洗濯機物語

～タビーの大冒険～

※交流員による紙芝居の出前もあります。

平成 年 月 日

山梨県立博物館館長 殿

資料借用申請書

申請者 学校(機関)名 _____

学校(機関)長氏名 _____ (公印省略可)

貴館のかいじあむミュージアムキットについて、貸出要項を遵守のうえ、下記の通り借用致したく申請します。

記

1. 借用を申請するキット (希望するキットの□に印をしてください。1回1キット)

古代木簡 石臼

戦国キット 全部 一部 → 鎧兜 戦国時代の太刀 火縄銃

江戸時代キット全部 一部 → 武士の服装 寺子屋本
 町人の服装・男 町人の服装・女

※ 甲州升のキットを加えてほしい

旅姿キット 全部 一部 → 菅笠 旅の服装 柳行李

博物館作成書籍 (書籍名 _____)
(キットとの重複可)

オリジナル歴史かみしばい (タイトル _____)

かいじあむ歴史かみしばい (キットとの重複可)

2. 借用期間 平成 年 月 日 から 平成 年 月 日

3. 運搬方法

着払の宅配便

博物館まで取りに行く (月 日 時ころ)

その他の方法 ()

4. 返却方法 (月 日 時ころ 返却手段 _____)

5. 活用目的 (学年, 人数, 活用する教科・領域, 単元名, どのように活用するか等)

6. 管理責任者 氏名 _____

7. 連絡先

○住所 〒 _____

○電話番号 _____ ○ファックス番号(必須) _____

資料活用報告書

学校(機関)名 _____

記入者氏名 _____

1. 借用したキット (□に印をしてください)

古代木簡 石臼

戦国キット 全部 一部→ 鎧兜 戦国時代の太刀 火縄銃

江戸時代キット全部 一部→ 武士の服装 寺子屋本
町人の服装・男 町人の服装・女

※甲州升のキットを加えた。

旅姿キット 全部 一部→ 菅笠 旅の服装 柳行李

オリジナル歴史かみしばい (タイトル _____)

古代木簡 1セット

石臼

かいじあむ歴史かみしばい

博物館作成書籍 (書籍名 _____)

2. 活用状況

○活用した単位 学校全体・学年(年)・クラス(年 組)・その他(_____)

○活用した科目等 総合・教科(_____)・その他(_____)

○単元または主題名(_____)

○活用状況 (できるだけ詳しく。別紙による報告も可)

※授業案, ワークシート, 授業の様子を報じた学級通信, 子どもたちの感想等がありましたら添付していただくとありがたいです。後日お送りいただいても結構です。

3. 活用しての感想・希望等

※紙面が足りなかったら他の紙にお書きください。

出前授業（講師派遣）の手続きについて

1 まずは電話で仮予約をお願いします。

- 希望する内容，日時，対象学年などをお知らせください。講師の派遣が可能かどうか博物館で調整をいたします。できるだけ希望日の1ヶ月前までに、ご連絡いただけるとありがたいです。

2 「出前授業講師派遣申請書」をご提出ください。

- 申請書を、当館ホームページ上でダウンロードし、必要事項を記入の上、職印を押印し、郵送してください。（提出期限は、実施日の1週間前までです。）

3 事前に確認しておきたいことなどがあれば、電話でどうぞ。

★4 出前授業当日★

- 内容によりパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使って授業をすることがあります。その場合お手数ですがパソコンや大型テレビまたは、プロジェクターやスクリーンなどのご準備をお願いいたします。
- 「出前授業を活用してのアンケート」を渡しますので、感想や改善点をご記入の上、FAX送信をお願いします。

■その他

- 費用は一切かかりません。
- 担当職員のスケジュールもありますので、あらかじめ授業実施日の候補をなるべく複数あげていただけるとありがたいです。また、実施予定日の1ヶ月前までに連絡をいただくと、スケジュールの調整がつけやすいです。（どうしても調整がつかない場合お断りする場合もございます。）
- すべての校種・学年で活用いただけます。
- 博物館見学の事前や事後に出前授業を位置づけると効果的です。日程等を調整いたしますので、ご連絡ください。

県立博物館では、博物館職員が学校におじゃまして 「出前授業」を行っています！

下記一覧表は出前授業のレポーターです。対象学年は、あくまで「目安」なので、要請があれば、小・中・高・支、どの校種、どの学年にも対応いたします。また、下記以外のテーマについても、できるだけ要望に応じますので、お気軽にお問い合わせください。なお、授業参観、PTA親子活動、校内研究会、教協研修会などで、ご利用いただくことも可能です。

| テーマ名 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中学 | 高校 | 教科等 | その他 |
|------------|----|----|----|----|----|----|----------|----------------|
| 昔の道具を体験しよう | ◎ | | | | | | 社会 | 昔の道具体験 |
| 信玄堤 | | ◎ | | | ○ | ○ | 社会・総合 | 開発单元・峡中地方 |
| 富士川舟運 | | ○ | | | ○ | ○ | 社会・総合 | 開発单元・峡南地方 |
| 明治40年大水害 | | ○ | | | ○ | ○ | 社会・総合 | 峡東地方 |
| 富士山世界遺産関係 | | | ○ | | ○ | ○ | 総合 | 南都留・遠足事前学習にも |
| 修学旅行事前学習 | | | ◎ | ◎ | | | 総合・社会 | 鎌倉 |
| 山梨県の歴史 | | | | ○ | ○ | ○ | 社会 | 日本の歴史とのつながりに焦点 |
| 古文書を読んでみよう | | | | ○ | ○ | ○ | 社会・総合 | 発達段階に応じて全学年に対応 |
| 武田信玄 | | | | ○ | ○ | ○ | 社会・総合 | 特に信玄ゆかりの地で！ |
| 甲府城 | | | | ○ | ○ | ○ | 社会・総合 | 甲府城周辺校 |
| 甲府空襲・大月空襲 | | | | ◎ | ○ | ○ | 社会 | 平和学習 |
| 浮世絵(北斎と広重) | | | | ○ | ○ | ○ | 図工・美術・社会 | |
| 県内巡りの見所 | | | | | ○ | | 総合・特活 | 県内の神社仏閣の歴史等 |
| 職業講話 | | | | | ○ | ○ | 総合・特活 | 学芸員の仕事について |

◎は、何回か実践済みで、好評をいただいている、お勧めの出前授業プランです。

歴史紙芝居 出前上演 テーマ一覧

下記一覧は、小学生対象の歴史紙芝居のレポーターです。出前授業同様、要請があれば、お伺いして上演します。業前の読書タイムや、図書の日など

| テーマ名 (各15分程度) | 対象・教科・関連等 |
|----------------------|-----------------------------|
| 「十二支の話」 | 低学年向き・12月、1月が効果的 |
| 「高度成長期 洗濯機物語」 | 3年生、社会科「昔の道具とくらし」に関連 |
| 「江戸時代 奮起一発！大工の仕事」 | 3年生、社会科「昔の道具とくらし」・キャリア教育に関連 |
| 「小さな親善大使 青い目の人形」 | 6年生、社会科の歴史・平和教育に関連 |
| 「武田信玄」(3部作・1部ごとの上演可) | 6年生、社会科の歴史・郷土学習に関連 |

出前授業講師派遣申請書

平成 年 月 日

山梨県立博物館館長 殿

申請者 住 所 〒

学校名

校長名 印

連絡先 TEL

fax

次のとおり、出前授業講師の派遣を申請します。

| | |
|-------|--------------------|
| 担当者名 | 先 生 |
| 学 年 | 年 () 名 |
| 内 容 | 教科名 単元名 |
| 出前授業名 | |
| 日 時 | 平成 年 月 日 () : ~ : |
| 場 所 | |
| 特記事項 | |

実践例 1

〇〇小学校 出前授業 3年 「昔の道具とくらし」

対象 : 〇〇小学校 3年生 〇〇名 (場所: 〇〇教室)

日時 : 平成30年3月15日 (木) 10:00~11:35

担当 : 岡田教育主事・姫野教育主事・丸尾学芸員 (計3名)

単元 : 社会科「古い道具と昔のくらし」

目標 : 昔のくらしの様子の写真を見たり、昔の道具体験をとおして、地域の人々のくらしがどのように変わってきたのかについて関心をもち、知ろうとしている。

持参品 : 石臼・洗濯板・天秤棒・しょいこ, パソコン
※「天秤棒・しょいこ」は、運搬道具です。

学校準備品 : ①椅子 (児童使用分: 座布団持参で床へ座ることも可能です)
②お米 (1合) ③ストップウォッチ
④パソコン, 「大型テレビ」または「スクリーン+プロジェクター」
⑤石臼運搬用のキャスター ⑥ブルーシート (石臼・洗濯板用)
⑦洗ってみたい布 (ハンカチ・タオル等 ※時間も限られているので、汚れは落ち
きらない場合があります。)

タイムテーブル

| 時間帯 | 学習内容 |
|--|--|
| 10:00~10:40 (40分) | 人々のくらしの移り変わりについて (博物館職員) |
| 10:45~11:25 (40分) ※当日の進行状況により、時間が短くなる場合もあります。 | ○昔の道具体験 石臼・洗濯板・天秤棒・しょいこ ○10分間: 4ローテーション ※時間が短くなる場合もあります。 ※学校の先生は、洗濯板・しょいこの担当と時間管理をお願いします。 (博物館職員・学校の先生2人) |
| 11:25~11:35 (10分) | ○学習のまとめ (博物館職員) |

【児童の感想】

- ・今のせんたくは自動であらえるけど、昔のせんたくはせんたく板とあらうものをこすってあらっていたからとてもたいへんだなと思った。冬は手が痛くなりそうだなと思った。
- ・てんびぼうの使い方は、バケツ2はい分をいっぺんに運ぶときに使う。気づいたことはいっぺんにたくさんの水を運べること。聞いて分かったことは、いがいとむずかしかったこと。
- ・石うすで分かったことは最初にたくさん回してもすぐに粉は出てこないこと。時間をかけてやっと少しずつ出てくる。お米をあなの中に入れて、木のところをゆっくり回すとだんだん白い粉が出てくる。

実践例 2

〇〇小学校 出前授業 6年 「修学旅行事前学習」

対象 : 〇〇小学校 6年生 〇〇名 (場所: 〇〇教室)

日時 : 平成30年4月20日 (金) (9:00~10:30)

担当 : 姫野教育主事 (計1名)

教科・単元 : 総合「レッツトライ修学旅行」

目標 :
・源平の戦い、鎌倉幕府の始まり等を手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解する。
・修学旅行の取組へ向けての学習意欲を高める。

持参品 : CD データ・鎌倉の絵地図 (配付用) ・カード (掲示用) ・その他の教材

学校準備品 : パソコン (CD が使用できるもの)
大型テレビまたは「スクリーン+・プロジェクター」
(できましたら事前に学校のパソコンをテレビまたはプロジェクターに接続しておいていただくとありがたいです。)

タイムテーブル

| 時間帯 | 学習内容 |
|------------------|--|
| 9:00~9:40 (40分) | 天皇・貴族中心の世の中から武士の世の中への移りかわりについて (歴史の話) |
| 9:40~9:45 (5分) | 休憩 |
| 9:45~10:25 (40分) | 鎌倉の旧跡・名所等の見どころの解説等 (鎌倉の絵地図に○をつけていきます) |
| 10:25~10:30 (5分) | 学習のまとめ (感想発表等) |

【児童の感想】

- ・運動会などで必ず赤白が使われる理由が鎌倉時代と関係しているとは思いませんでした。源頼朝が鎌倉幕府をつくり、そこを本拠地にした3つの理由もしっかり理解できました。修学旅行に行ったら教えてもらった観光スポットに行ったり、教えてもらったことを生かしたりしたいです。
- ・私は出前授業がどんな授業かワクワクしていました。鎌倉のいろいろな歴史を分かりやすく教えてもらい歴史に興味を持ちました。また修学旅行がもっと楽しみになってきました。私は自分の意見を言うのが苦手ですが、歴史のことは考えが言えるようにしたいです。

職場体験学習・インターンシップ

山梨の歴史を後世に伝える博物館の仕事に接する中で、山梨についてより深く知っていただくとともに、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせる」というキャリア教育の観点からも、博物館では中高生の職場体験学習・インターンシップを受け入れています。

○受け入れ期間

随時受け入れますが、博物館開館日、開館時間に限ります。（火曜休館なのでご注意ください。）また、博物館の行事が重なっていたり、混雑が予想される時期にはお断りする場合があります。

○実習日数

基本的に2日間です。（1日、3日間も検討します。ご相談ください。）

○人数

2～5名程度のグループ（人数についてもご相談ください）

○体験内容

- ・山梨県立博物館の歩み・役割についての説明
- ・博物館で働いている人たち（学芸員など）の仕事についての説明
- ・館内見学（展示室・研究室・資料収蔵庫など）
- ・業務体験（改札業務・利用者案内・ミュージアムショップ・資料整理・アンケート集計・畑仕事・事務補助など）

※他にもご希望があれば、ご相談ください。

○その他

- ・保護者を通して受け入れの可否を確認する場合でも、申し込みは学校が一括して行ってください。
- ・申し込みが重なる場合、他の学校のグループと一緒にの実習ということもありますが、ご了承ください。
- ・甲府駅、石和駅から当館を通る路線バスがあるので、生徒だけでも通えます。

かいじあむティーチャーズクラブとは…

山梨県立博物館では、学校の教育課程の中で博物館を有効に活用できるよう、活用事例の開発および教職員の博物館での学習機会を確保するため、ティーチャーズクラブを運営しています。

【活動の内容】

博学連携の推進という立場に立ち、会員の先生方が博物館を見学し、学校の授業や博物館を利用した校外学習の際の有効な博物館活用方法を探ることで、県内の児童生徒の郷土学習が推進されることを目的としています。会員の先生方には、都合のつく時間にいつでも博物館に来て、博物館の活用についてイメージをふくらませてもらいます。また、年に2回の研究会もご案内致します。



研究会の様子

【たとえばどんな活用方法があるの？】

- 博物館を利用した有効な学習方法の情報を得る。
 - 博物館の活用の幅を拡げ、どのような利用方法があるか探る。
 - 博物館の貸し出し用の教材・教具（ミュージアム・キット）を活用してみる。
 - ビデオ教材やデジタル資料を活用してみる。
 - 出前授業を活用してみる。
 - その他、博物館を授業で生かすアイデアを企画・実践する。
- ※博物館のホームページからワークシートをダウンロードできます。

【会員になると】

- 県内の学校(小中高特)、教育機関にお勤めの教職員の方ならどなたでも会員になれます。
- 会員証を発行し、それを提示いただくと県立博物館の常設展示、企画展示を何度でも無料で視察いただけます。研究はもちろんですが、気軽に展示などをご覧ください。(もちろん年会費や入会費はありません)
- 博物館には授業で活用できるどんな資料があるのか、どんな活用方法があるのか、そんな情報を得ることができます。お気軽にご入会ください。
- 年2回開催予定の研究会については、ご都合のつく範囲でご参加ください。

【会員になるには】

応募用紙に必要事項をご記入の上、郵送やFAX等で県立博物館までお送りください。(406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1 FAX 055-261-2632)

※応募用紙は27ページまたは当館ホームページ
(<http://www.museum.pref.yamanashi.jp>) にあります。

博物館の活用方法を研究してみませんか？

かいじあむティーチャーズ・クラブ 2017

会員募集!!

山梨県立博物館では、学校の教育課程の中で博物館を有効に活用できるよう、活用事例の情報交換および教職員の博物館での学習機会を確保するため、本年度も「かいじあむティーチャーズクラブ」の会員を募集します。



【活動の目的及び内容】

博学連携の推進という立場に立ち、会員の先生方が博物館を利用し、授業や校外学習での有効な博物館活用方法を探り、県内の児童生徒の郷土学習を推進することを目的とします。会員の先生方は、都合のつく時間いつでも博物館に来て、博物館活用について、イメージをふくらませてもらいます。また、年に2回の研究会や教育センターとの共催による研修会もご案内いたします。

【クラブの会員になると？】

- 県内の学校(小中高特)、教育機関にお勤めの教職員の方ならどなたでも会員になれます。
- 入会費・年会費はありません。定員も特に設けません。多くの先生方の入会をお待ちしております。
- 年2回の博物館主催の研究会や教育センターの研修会があります。(参加は任意です。)
- 常設展示・企画展示の視察について観覧料を免除させていただきます。観覧の際には、会員証と身分を証明できるもの(運転免許証または組合員証など)をご持参ください。
- 勤務先の移動及び退会の折には博物館まで御連絡ください。



【たとえばどんな活用方法があるの？】

- 博物館でさまざまな学習素材を学ぶ。
- 博物館のどのような活用方法があるかを探る。
- 博物館の貸し出し用の教材・教具(ミュージアム・キット)を活用してみる。
- ビデオ教材やデジタル資料を活用してみる。
- 出前授業を活用してみる。
- その他、博物館を授業で生かすアイデアを企画・実践する。
※博物館のホームページからワークシートをダウンロードできます。

【応募するには？】

- 応募用紙に必要事項をご記入の上、郵送・ファックス等で県立博物館までお送りください。
- 研究会の開催にあわせて学校長宛に出張依頼文書を送付いたします。

【問い合わせ・申し込み先は？】

山梨県立博物館 企画交流課
(ティーチャーズクラブ担当)
〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1
電話 055-262-1278
ファックス 055-261-2632

かいじあむティーチャーズ・クラブ 設置要綱

第1条（目的）山梨県立博物館では、学校の教育課程の中で博物館を有効に活用するため、教職員による研究・研修を行う『かいじあむティーチャーズクラブ』（以下、クラブと呼ぶ）を置く。

第2条（会員）県内の学校（小中高特）ならびに教育機関に所属する教職員は、クラブの会員になることができる。（別添申込書）

第3条（活動）クラブ会員は博物館を活用した学習・活動に関する情報を得て、教育実践に生かす取り組みをする。取り組みは個人でもグループでも行える。

第4条（会費）クラブの会費（入会費・年会費とも）は無料とする。

第5条（事務局）クラブの事務局は博物館におき、その事務を企画交流課が担当する。

第6条（研究・研修への支援）会員に研究や実践を効果的に進めてもらうために、以下のような支援を行う。

- 博物館の資料を授業で活用する際の助言・支援
- ミュージアムキットなどの優先使用
- 常設展示・企画展示観覧料の免除

附則

この要綱は平成18年 7月28日から施行する。

平成24年 6月7日一部改定

この用紙をコピーしてお使いください。郵送・ファックス等でお送りください。

山梨県立博物館 企画交流課 ティーチャーズ・クラブ 担当

〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1

電話番号 055-261-2631 ファックス 055-261-2632

ここには何も書かないでください

| 受付日 | 小 | 中 | 高特 | |
|-----|---|---|----|--|
| | | | | |

かじあむティーチャーズ・クラブ応募用紙

平成 年 月 日提出

| | |
|-------------|----------|
| ふりがな お名前 | 性別 (男・女) |
| 所属(学校等)名 | |

県立博物館を活用して実践してみたいアイデアがありましたらお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

ティーチャーズ・クラブに対してのご意見ご要望等ありましたら自由にお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

この用紙をコピーしてお使いください。郵送・ファックス等でお送りください。

山梨県立博物館 企画交流課 ティーチャーズ・クラブ 担当

〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1

電話番号 055-261-2631 ファックス 055-261-2632

ここには何も書かないでください

| 受付日 | 小 | 中 | 高特 | |
|-----|---|---|----|--|
| | | | | |

かいじあむティーチャーズ・クラブ 所属変更届

平成 年 月 日提出

| | |
|-------------|----------|
| ふりがな お名前 | |
| | 性別 (男・女) |

○ 今年度の人事異動により所属が次のように変わりましたので、
会員証の更新を願います。

| | |
|---------------|--|
| 旧所属名 (学校等) | |
| 新所属名 (学校等) | |

県立博物館を活用して実践してみたいアイデアがありましたらお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

ティーチャーズ・クラブに対してのご意見ご要望等ありましたら自由にお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

子ども学芸員事業のご案内

①子ども学芸員ってどういうもの？

学校で山梨県立博物館を見学したり、出前授業を受講したりした、学習の成果としてレポートをご提出いただくと、児童生徒を当館の子ども学芸員に認定します。子ども学芸員には認定証と常設展無料招待状（ご家族様分）を学校を通して渡します。

来館を重ねるごとにポイントが増し、子ども学芸員のグレードが初級→中級→上級とアップしていきます。

②目的は？

子ども達に山梨県の歴史・文化についてより深く知ってもらい、山梨県民として山梨の自然や人々に対する興味や関心の幅を広げてもらうことを目的としています。

③学習の成果(レポート)は次のようなものが考えられます。

- 見学の際に使ったワークシート(当館のものでも学校独自のものでもOK)
 - 事後学習としてまとめた博物館見学の学習感想等(国語や総合の学習とタイアップした場合を除き、「お礼の手紙」ではないものが望ましいです。)
 - 見学の絵日記
 - 当館の見学を題材にした絵画作品等
- ※全員が取り組んでいれば、代表レポート数点の提出をもって、全員を認定します。(その際の提出レポートはコピーにしてください。)

④参加対象は？ 山梨県内の小・中・高・支援学校の児童生徒

レポート送付・お問い合わせ先】

山梨県立博物館 企画交流課 子ども学芸員担当

〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1

電話 055-262-1278

ファックス 055-261-2632

「大好きな山梨を描こう」絵画作品応募について

○山梨県立博物館では、「大好きな山梨を描こう」というテーマで作品を募集しています。わたしたちが住んでいるこの山梨の自慢や魅力、大好きな山梨の未来を想像した作品を子どもたちに描いてもらう絵画作品を募集し、展示の一部として活用していきます。応募された全作品を展示しますので、ふるってご応募ください。

【絵画作品募集の流れ】

6月中旬 県内小中学校に電子メールにて募集要項を送付。
各校の夏休み課題一覧に掲載をお願いします。
図工・美術・社会・総合等の授業で制作したものでも結構です。

夏休み期間中 各家庭にて、児童生徒の取り組み。

9月上旬 作品応募締め切り。(学校ごとの送付をお願いします。)

10月下旬 博物館に展示。(全応募作品を展示します。)
応募数により期間ごと何回かに分けて展示する場合があります。
展示日程などは、事前に学校を通して、応募者にお知らせします。

【応募に際しご注意くださいこと】

○四つ切りの画用紙(38cm×54cm)を38cm角の正方形に切ったものに描いてください。(窓枠の円の直径は35cmです。) →

○画材は、水彩、クレヨン、クレパスです。

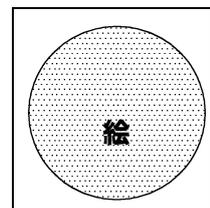
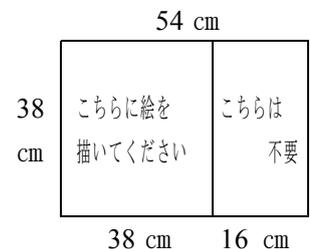
(色鉛筆は不可です。ご注意ください。)

○作品の裏に、学校名、学年、氏名(ふりがなも)を記入してください。

○作品は折らないでください。

○応募作品を展示する際、「円い窓枠」(右の図参照)に入れて展示します。画用紙の隅に描いたものは枠に隠れて見えないことがありますので、ご注意ください。

○詳細は6月中旬に送付する「募集要項」でご確認ください。



展示の様子



【その他】

○応募いただいた全児童・生徒に、山梨県立博物館の常設展の家族招待券を進呈します。

○現在、平成29年度の応募作品を各期間ごと順次展示しています。ぜひご来館ください。

《 かいじあむイベントのご案内 》

山梨県立博物館（愛称：かいじあむ）では、体験をとおして、楽しく遊びながら歴史が学べるプログラムを、土曜日と日曜日を中心に開催しています。博物館の展示をみてまわるのも楽しいですが、博物館で定期的に行っている恒例のイベントをご紹介しますので、是非参加してみませんか。詳細は、博物館のホームページやチラシ等をご覧ください。

| | |
|--------------------------|---|
| 館長トーク | 当館の守屋正彦館長（芸術学）による講演会です。 【基本的に奇数月の第3日曜日 13:30～15:00 生涯学習室】 ※異なる場合もあるので、ホームページ等で確認願います。 |
| かいじあむ講座 | 当館の学芸員による、特別展に関連した内容等、歴史を楽しく学べる講座です。 【不定期開催】 |
| 学芸員による ギャラリー・トーク | シンボル展・特別展の見どころを、担当学芸員が詳しく解説します。 【展示開催期間中の土・日・祝日】 15:00～（1時間程度） |
| かいじあむ 古文書講座 | シンボル展・特別展に関連した内容や、季節等に関連した内容について、初めて古文書を学ぶ方を対象とした講座です。 【9・12・3月を除く毎月第4土曜日 13:30～15:00 生涯学習室】 |
| 古文書相談日 | お手持ちの古文書の読み方、整理方法、保存方法等について専門の学芸員が相談に応じます。古文書の全文解読や、資料鑑定等対応できない内容もあります。 【奇数月の第2日曜日 10:00～13:00 体験学習室】 |
| お庭の見どころ ガイド | かいじあむのお庭には、約160種4万本の草木が植えられ、野鳥や昆虫も訪れます。お庭の四季折々を散歩がてらに楽しんでみませんか？協力会会員のご案内いたします。 【毎月第3土曜日 13:30～14:30 博物館外庭】 |
| かいじあむ 子ども工房 | 展示の内容や、季節に合わせた、子ども向けに体験的、工作的なプログラムを用意し、ふだんではできないむかしの体験や工作を行います。 【毎月第2土曜日 10:30～15:00 ロビー他】 |
| 展示交流員による 常設展スルーガイド | 当館の常設展示の中から、オススメのコーナーを、展示交流員が詳しくご説明・ご案内いたします。 【毎週土曜日 11:00～11:30 常設展示室】 |
| あそぼう！ まなぼう！ 寺子屋ひろば | 展示交流員が、様々なメニューで、楽しく遊びながら歴史が学べるプログラムを紹介しています。 【毎週日曜日 11:00～11:30 常設展示室寺子屋ひろば】 |

この他にも、博物館の季節のお祭りとして「かいじあむ子どもまつり」、「かいじあむの夏まつり」、「かいじあむの秋まつり」、「かいじあむのお正月」と題し、大人から子どもまで楽しめる盛り沢山のイベントを開催し、皆様をお迎えしています。

※いずれのイベントも原則として、参加費無料で行っていますが、特別展／常設展の観覧券が必要な場合や、材料費等が必要な場合もあります。詳しくは、当館のホームページやチラシをご覧ください。

山梨県立博物館 平成 30 年度展覧会

企画展

芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師

2018.3.17[土]～5.14[月]



「風俗三十二相 うるささう 寛政年間 処女之風俗」
明治 21 年 (1888) (部分図)

江戸から明治にかけて活躍した浮世絵師・月岡芳年の作品をご紹介します。

誕生50周年記念 リカちゃん展

2018.7.14[土]～9.3[月]



各時代のファッションや住宅事情、家族構成や価値観を映し出してきた歴代のドールなど約700点が勢揃いします。

文字が語る 古代甲斐国

2018.10.13[土]～12.3[月]



甲州市ケカチ遺跡出土 和歌刻書土器
(甲州市教育委員会)

「文字」に着目し、古代甲斐国の姿や、他地域との関わりなどをご紹介します。

県都甲府の500年

2019.3.16[土]～5.13[月]

500年間の甲斐国・山梨県の政治・経済・文化の流れについて、「甲府」をひとつの切り口としてご紹介します。



「甲府繁栄之図」(『甲府買物独案内』)

シンボル展

山梨の明治—新しい時代の幕開け—

2018.5.26[土]～6.25[月]



今年は、明治元年(1868)に山梨県が成立してから50年。当時の人々の姿を振り返り、現在の私たちにとってのヒントを見つけてみてください。

明治 45 年 (1912) の甲府八日町
(現在の NTT 甲府支店付近)の様子

『木喰上人作木彫佛』

—身延の木喰さん、世に出るその最初—

2019.1.12[土]～2.25[月]



柳宗悦の木喰研究の集大成ともいえる写真集『木喰上人作木彫佛』を中心にご紹介します。

『木喰上人作 木彫佛』乙巻より

小学校社会科での「幕絵」の教材化について

2018年2月26日

甲府市立国母小学校 雨宮 康治

はじめに

私の勤務する甲府市は2019年の「こうふ開府500年」に向けて盛り上がりを見せている。小学校においても学習パネルを掲示したり、地域の歴史探訪が行われたりしている。しかし、授業の中で直接、甲府の歴史を取り上げることは少ない。取り上げとしても、資料が豊富で史跡も身近にある武田氏の学習か、平和教育の一環として行われる甲府空襲の学習くらいである。

そこで江戸時代の甲府の象徴的な事物である幕絵を取り上げ、社会科の授業ができないかと思いついた。幕絵を教材化することで、児童に江戸時代の豊かな甲府の文化に触れさせ、自分達の生きる甲府の歴史についての新しい一面を知り、自分の住む地域の歴史を考える機会になればと考えた。

I 幕絵の教材化に向けて

合言葉は「武田だけじゃない甲府の歴史」

1. 幕絵について

幕絵は、近世の甲府城下において行われた甲府道祖神祭りの際、商家の店先に飾られた布製の絵幕である。山梨県立博物館には「甲府道祖神祭幕絵 東都名所 目黒不動尊之瀧」と「甲府道祖神祭幕絵 洲崎潮干狩り」が収蔵されている。甲府道祖神祭りの際には、このような幕絵が甲府の城下に100枚程飾られ、大変な賑わいを見せたと言われる。幕絵は当時の有名絵師たちによって描かれ、甲府道祖神祭りの目玉とも言うべきものであった。甲府の柳町周辺を中心に、甲府が発展・都市化が進む中で、甲府道祖神祭りは「当国一大盛事也」といわれるように盛大な祭りになっていったと考えられている。

幕絵は1840年前後に描かれたと推定される。幕絵の題材には各地の名所や合戦の様子が取り上げられた。その背景には、天保飢饉や甲斐国天保騒動等による社会の荒廃からの復興し、甲府も江戸のようになって欲しいという願いや、歌川広重など有名絵師を招聘するだけの経済力や文化的な素養をもっていた甲府の商人の存在があると考えられている。

博物館の紀要や出版物を根拠としています。

2. 学習指導要領と幕絵・歌川広重

幕絵を描いた歌川広重は学習指導要領には、「内容の取扱い」において「人物の動きを通して、学習できるように指導すること。」として具体的に挙げられた歴史上の人物の一人に取り上げられている。次期学習指導要領でも同様の傾向があり、「歌川広重などによって描かれた作品が人々に親しまれたこと」（知識に関わる事項）、「社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、歌舞伎や浮世絵はどのような人々に親しまれていたか、国学や蘭学はどのような学問だったのか、どのようにして作り上げたのかなどの問いを設けて、歌舞伎や浮世絵が町人の間に広がったことや国学や蘭学がおこったことを調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、文章で記述したり説明したりすること」（「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項）とされている。

地域の教材なのに、学習指導要領や教科書のねらいをダイレクトに行けるのが「幕絵」の魅力

3. 幕絵と児童の実態（国母小学校の6年生）

歌川広重の残した浮世絵は、現在でも知られ、お茶漬け会社のCMや美術番組などにも登場し、児童も目にすることがある。その広重が実は甲府と縁が深く、幕絵作成以外にも商家の夫婦の肖像画を描いたり、甲府に滞在した様子を日記に残したりしていることはあまり知られていない。

幕絵そのものについても校外学習などで山梨県立博物館を訪れて見たことはあったり、駅前でも漫画幕絵を見たりした経験のある子はいたが、どのようなものであるかを知っている児童はいなかった。

児童の住む国母地区は、歌川広重が甲府に来ていたこととされる柳町周辺には遠光寺北を通過し、道一本でつながっている。校外学習の際には徒歩で遊亀公園まで近くまで行くことがあったり、郵便局やデパートがあったりして、頻繁に利用する生活圏内ではないものの、「行ったことのある場所」として認識されている。

4. 幕絵の教材化の観点

以上のような学習指導要領上の目標と、児童の実態から幕絵の教材化の観点を以下のように設定した。

- a 幕絵への興味・関心を高めるために、どのように児童に出会わせるか。
- b 幕絵からどのような「問い」(学習問題)を設定できるのか。
- c その「問い」によって、児童はどのようなことを考えることができるのか。

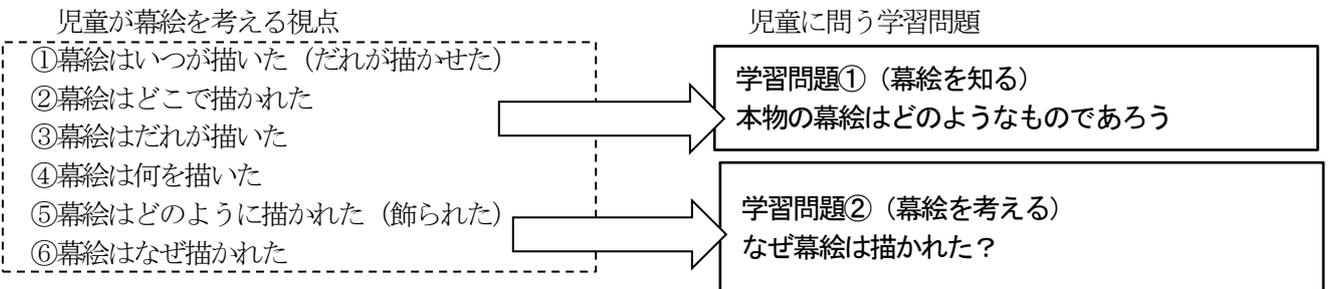
(1)a 幕絵をどのように児童に出会わせるか

山梨県立博物館の支援のもと、実物大サイズの幕絵のレプリカを作成してもらった。それを廊下に掲示し、色の具合や汚れまでわかるような距離で見せたり、通行人のように見せたりすることで、ちょっとした追体験もできるのではないかと考えた。

児童が歴史上の事象を自分の問題としてとらえるには、心を揺さぶるような資料との出会いが必要である。写真ではなく、実物大サイズの幕絵を用意することで、「大きい！すごい！」という驚きを持たせることができたり、幕絵を廊下に掲示し、教室にも入らないような大きな幕絵を掲示したりすることで、児童は自然と「(こんな大きなもの)だれが描いたの？どこにあったの？」という素朴な問いを持ち始める。

(2)b 江戸時代の甲府の町人文化を理解させるのに、幕絵からどのような問いをもてばいいのか。

社会科では社会的事象を時間軸、空間軸、関係軸の3点から捉えることで、社会的事象の意味を考えることができる。この3つの軸を小学生にわかりやすくすると「5W1H」の観点になる。幕絵の関係する問いを考えると以下ようになる。これらの児童が幕絵を考える視点を大きく2つの学習問題に集約し、児童に問う授業構成を考えた。



(3)c その問い(学習問題)によって、どのようなことを考えることができるのか。

本実践の中心となる問いは学習問題②「なぜ幕絵は描かれた？」である。学習問題①だけでは、幕絵の概要をとらえるだけで終わってしまい、当時の社会状況と関連付けることができない。

児童が予想してきた学習問題②に対して、天保騒動や飢饉の資料を提示し、再検討させる。そこで幕絵には社会不安から希望をもって抜け出そうとする甲府の人々の思いもあったことに気づかせる。幕絵に対する考えを深めさせていく。

II 授業実践

1. 単元名 新しい文化と学問

2. 本時について

- (1) 日時 平成29年10月16日・18日
- (2) 場所 国母小学校 6年2組教室

教材化で大切なのは、問い。子どもが自分のこととして考えられる「問い」や新たな問いへつながっていく問いはないか。幕絵からはどんな「問い」を設定できるか。

(3) 本時のねらい (2時間)

- 幕絵を通して、江戸時代の甲府に豊かな町人文化があったことを知ることができる。(知識・理解)
- 幕絵が作成された理由について、自分なりの根拠をもとに考えることができる。(思考・判断)

(4) 評価の規準

- 【知識・理解】 幕絵を通して、歌川広重の来たことや甲府道祖神祭りの様子を捉え、甲府にも江戸の影響を受けた歌川広重の町人の活気ある文化があったことを知ることができたか。(発言・ワークシート)
- 【思考・判断】 幕絵が作成された理由について、当時の社会の出来事を根拠にしなが、甲府の人々や商人の立場たって、考えることができる (ワークシート)

(5) 展開 (2時間)

10月16日(月) 第1時「本物の幕絵とはどんなものだろう？」(幕絵を知る)

学習活動①・・・幕絵に出会う・・・現代の「漫画幕絵」から本物の「幕絵」に興味を持たせ、学習問題をもつ

「萌キャラ」や「ゆるキャラ」の写っている漫画の幕絵を見せた。「防災新館のどこ?」「市役所にある?」といった反応で、数名は見たことがあるものであった。次にその漫画幕絵のちらしをみせ、「ゆるキャラ×漫画幕絵×甲府の伝統行事のコラボ」という文章の着目させ、単なるイベントのポスターではなく、甲府の伝統行事と関係していることに気づかせた。漫画幕絵にも何か歴史があること、甲府には伝統行事であることに気づかせ、「じゃ、『本物の幕絵とはどんなものなんだろう?』という学習問題①を設定した。

学習活動②・・・幕絵を調べる・・・県立博物館の幕絵のレプリカを観察し、気づきや疑問をもつ



←廊下に飾った県立博物館から
かりた。特別教室の廊下に掲示。
入口のドアも覆ってしまった。

子どもの豊かな発想が見
られました。

学習問題①の解決のため、まずは博物館に作成してもらった「本物の幕絵」を児童に見せた。教室に入らないため、廊下に掲示した。児童の反応は「何!でっけー。」「うわー、やばすぎ。」といったもので幕絵の大きさに驚きを見せた。(多目的室という通常教室の1.5倍の大きさの部屋の壁が全部覆われてしまう。)

児童は幕絵の大きさをメジャーで計測したり、描かれている文字に注目し、「先生、目黒って書いてある?」と言って、教室に戻り、パソコンで調べたりする児童も見られた。絵の中央の階段を見て、「神社かなにか?」と予想したり、絵の人物に刀を差している者がいないことに注目したりした子もいた。

学習活動③・・・幕絵について話し合う・・・話し合いをとおして、幕絵の概要を知る



わかったこと、疑問に思うことを胸に教室に戻り、情報交換をした。教師側が「いつ、どこ、だれ、何を、どのように、なぜ」の観点から、子どもの得た情報を引き出しなが、幕絵の正体を児童との話し合いをしながら、探っていく。

←廊下で見た幕絵を、教室のテレビで気になる部分を映し出す。右の「東都名所 目黒不動尊」は児童の推測が盛り上がったが、左の「廣重」はわからなかった。

「東都 名所 目黒不動尊」の文字を児童との話し合いで、どこの絵なのかを追究した授業場面

- C 先生 なんか目黒区のなんか・・・
 T そう、いま確実にわかったのが この書いてある字。この入り口に書いてある字何人かの女の子がすぐにネットで調べてくれて、そうしたらこんなお寺だって。「護国院龍泉寺、目黒不動尊」っていうんだって。
 T 目黒って聞いたことある？
 C 知ってる、知ってる、目黒
 C となりに京都って書いてある
 T でもさ、目黒は京都じゃないよな。
 C 東京だけど、東がぬけちゃったんだよ。
 C まって、東京じゃない？
 T そう、いいね。東京っていうのは いつできたの、名前？
 C あ、あ〜。そっかあ。
 C 東京ってのは・・・。
 T 明治でしょ？だから江戸時代、これに東京っていう言葉はないはずっちゃあけ。
 C ああ そうか。
 (東都の字を指して)
 T この字は東っていう字、こっちは都(東都)、西の都ってどこ？

既習事項や生活経験から幕絵を探っていく。地域の教材でも普通の社会科の授業を意識して行いました

このような児童とのやりとりを繰り返して、幕絵のついてと以下のように整理した。

- a 「東都 名所 目黒不動尊」の文字から、絵の内容は江戸の目黒のお寺を描いたものであること。
- b 「廣重」の文字から、歌川広重が描いたこと。広重だから江戸時代の後半の物であること。
- c 幕絵にフックのようなものがあり、汚れていることから、外に飾られていたこと。

次に大きさに着目し、調べたていた児童に寸法を発表させた。たて1.6×10m。「この幕絵が100枚以上飾られたとする研究者もいるよっ」と説明すると、児童は「1Km! 「国母小から千秋橋までってこと!」」とこの日一番の歓声をあげた。

これらの幕絵が飾られた祭りが昔あって、甲府道祖神祭りということを伝えた。

学習活動④・・・江戸時代の甲府や甲府道祖神祭りについて知る。・・博物館の資料などから幕絵の飾られた甲府道祖神祭りへのイメージをつくる。

児童の意識を幕絵そのものから甲府道祖神祭りへ向いたあと、博物館展示資料の映像を提示しながら、学芸員の丸尾先生のインタビュー資料①を配布した。そこで甲府道祖神祭りが幕絵だけでなく、迷路があったり、歌舞伎が見られたり、華やかな祭りであったことを読み取らせた。博物館の展示物の一つである幕絵のイメージ映像(右下写真)がでたとき、児童の反応がよかった。また、左下写真のジオラマの写真にある「子どもがお賽銭をねだっている」様子を知ると「ハロウィンみたい。」というつぶやきもみられた。



県立博物館の展示物の画像。インタビュー資料のイメージ
 作り手：河田

これDVDか、ネット上で見るといいなあー

学習活動⑤・・・学習を整理し、新たな問題へ向かう。・・学習問題①の解決から学習問題②へ 問いをつなげる

児童の中でまだ解決していないことは、「なぜ江戸の絵を甲府に飾ったのか。」と「なぜ幕絵が描かれたのか。」であった。両方とも幕絵の目的に関わることなので、統合して「なぜ幕絵が描かれたのか。」を次時の学習問題(学習問題②)として取り上げ、予想してくることを宿題にして、1時間目の授業を終えた。

(2) 10月18日(水) 第2時「なぜ幕絵は描かれたのだろう？」(幕絵を考える)

学習活動⑥・・・「なぜ幕絵は描かれたのか？」についての自分の考えを伝える

導入では前時の簡単な振り返りと、甲府道祖神祭りが行われた頃の甲府の町には、多くの商人がいて、今も「吉字屋」「月の乗」など店や商品として残っているものもあるという話をした。その後、学習問題②「なぜ幕絵は描かれたのか？」を確認し、宿題でやってきた、自分なりの予想を発表した。学習問題への個人の予想を分類すると次のようなものであった。

「なぜ幕絵は描かれたのか？」児童の初期の考えを分類

- a 幕絵は甲府をアピールするもの。(甲府を自慢したい。甲府に来てほしい。甲府は盛ってるよ。)
- b 幕絵は江戸を伝えるもの。(江戸に行きたい。江戸ってすごい。甲府と江戸を比べて)
- c 幕絵は後世に残すもの。(後世に甲府の良さや自分たちの時代を残したい。)
- d 幕絵は広重のアピール。(広重が自分の画力を自慢したい。)

などに分かれた。甲府の人々の立場で考える予想と広重の立場で考えがあった。

天保騒動や飢饉の話を出して、予想の練り直しを迫りました。

学習活動⑦・・・自分の考えを、社会の様子と関連付けて、練り直す

社会的な背景と関連付け、検討し直した自分の予想を発表する場面

- C 打ちこわしや大飢饉などで不安な心をも、絵を見て癒すため。
- C 江戸の方は安心だっていうことを伝えたいから。
- C 不安を安心にしたい。
- C 大阪では打ちこわしが起こった。そして日本中が食べ物になくなった。それみかけた広重が幕絵を描いてみんなを元気づけた。
- T この二人の意見は、広重の立場からの意見でした。では、町人の立場で予想した人いませんか？
- C 当時人々はボロボロだったから、少しでも活気づけようとお祭りを作った。
- C 飢饉が起こったため大騒動になり、甲府は人口が減り活気のない街になったため、幕絵を作って再繁栄を願う商人の気持ち。
- C 打ちこわしなどをして、その時商人たちがすごく困っていて、それで幕絵を描いて、お寺の幕絵を描いて、もうそういうことはしてはいけないという誓い

上は授業中の子どもの発言からであるが、授業後のワークシートを見てみると、子どもの検討し直した予想は、打ちこわしなどの社会の荒廃を踏まえた上で、「不安から安心」へ、「甲府の再繁栄」へという言葉を入れる予想が増えてきた。

学習活動⑧・・・自分の考えを確認する。

この検討し直して深まった自分の考えを丸尾先生のインタビュー資料②を読み、自分の考えと照らし合わせる活動を行った。ここで甲府の町人の思いや現在甲府道祖神祭りがおこなわれていない理由を知ることになる。時間配分を間違い、インタビュー資料を読むだけで終わってしまったため、インタビュー資料によって自分の考えを修正した部分などを発表できず、クラス全体での共有ができなかった。最後に2時間続けての学習の感想を書かせ、授業を終えた。

III 実践後の成果と課題

1. 実物サイズの幕絵の活用について

幕絵の実物大サイズを学校に持ち込み、児童に出会わせたことは、大きなインパクトを与えた。そこでの驚きが、その後の学習活動の原動力となったと思う。なかなか自分の思いを表現しにくい高学年の後半の時期に、担任でも

ない教師の授業という短所があったが、「本物」の資料と出会いは、そのような短所を越え、子どもの心に響くものであると思った。

2 児童の学習感想から

子どもの学習感想を整理すると、「甲府にこういうすごい祭りがあったなんてびっくりしました。」というような、幕絵や甲府道祖神祭りの存在への驚きに関する感想と「幕絵にはいろんな思いが入っている絵なんだと思いました。」というように幕絵に込められた思いに関する感想が多く見られた。甲府にとっても繁盛した祭りがあったことと、甲府の人々が幕絵に願いを込めていたことにふれることができたと思われる。

一方で、学習感想の中には、歌川広重のインパクトが強くて、広重の好意で幕絵が描かれたといった感想もあり、幕絵を描かせた主体である、甲府の町人の存在に意識を向けさせることが不十分であった。この二つの立場からの考えがでたことが、授業のねらいからすると、最初から甲府の町人の立場に限定するといったことも必要であったと思う。また、天保の飢饉や天保騒動を扱った時、その悲惨さ印象から、人々の不安の解消という意見も見られた。

クラスを借りての時間限定の授業だったため、どの学習活動も時間不足気味であった。それを承知の上での実践であったが、幕絵をじっくり観察する時間、その当時の甲府の様子（亀屋座や甲府買物独案内などをつかっ）について学習する時間、友達の意見をじっくり検討する時間を保証することができなかった。やはり4時間抜いくらいでできればと思う。

3 教材化への課題として・・・「調べる活動」の難しさ

社会科の学習として幕絵を扱った時に、どうしても「調べる学習」を進めづらい。子ども達手にすることができる資料で、幕絵に関する記述があるものは、「ふるさと山梨」に数行ある程度である。また、甲府道祖神祭りに実際に参加した人も、保存会のような人もいない。社会科でよく行われる取材などもできない。

そこで今回は博物館の学芸員の先生にお話を聞き、小学生用に言葉を変えたものを活用した。インタビュー資料は、自分の予想や考えを確かめたり、新たな情報を得たりする手段として活用した。

以上のような魅力のある幕絵を教材化していくのに、大きな力となるのが博物館の活用と職員・学芸員からの支援であった。

4 山梨県立博物館の活用と支援

幕絵の教材化に当たり、ベースとしたのが、山梨県立博物館の展示物並びに研究紀要やパンフレットなどの出版物である。個人的に何度か展示物の見学や紀要を読むことをしたうえで、山梨県立博物館の岡田教育主事を通して、教材化への協力をお願いした。

- a 教材化にあたって、書物や掲示物を見てもわからない授業者のもつ幕絵への疑問等への解決。
- b 授業で使えるような資料を選び、それらの作成やデータの借用。
- c 幕絵に関する博物館展示物の撮影の許可。
- d 児童向けの資料を作成するための、学芸員の先生にインタビューとその検討。
- e 作成した授業構想案や学習指導案の検討
- f 研究成果の還元

おわりに 実践を終えて

新学習指導要領が示され、「対話的・主体的で深い学び」が求められている。今回の実践で児童が大きな驚きを表した場面は、自分の住む地域に埋もれていた歴史が、教科書で習う有名人とつながった時や自分の地域が華やかであったことに触れた時であった。児童の学習感想には「深い歴史がある」「一つ事実わかると、次の疑問がでてくる」という感想を記述があった。幕絵は、現代の教育で求められる「主体的で、対話的な、深い学び」につながる、魅力ある地域の素材であると痛感した。

今後も幕絵の教育実践を重ね広めていきたい。「豊かな江戸時代の甲府や山梨」像をこれからも学び、「流行もの」ではなく、山梨の教員が当たり前実践できる教材として、幕絵の実践を育てていきたいと考えています。

笛吹高等学校「博学連携」活動について

笛吹高等学校 古屋寛往

1 本校における博学連携活動の経緯

平成17年度に山梨県立博物館が開館以来、地理的条件に恵まれた本校では旧石和高等学校時代から県立博物館との連携交流を行っている。現在、1年生（281名）を対象に「総合的学習の時間」を活用して博物館を訪問見学する時間を設けている。1学年8クラスを2パートに分け、生徒は事前に設定した各自のテーマに沿って常設展示を見学し、事後指導として「総学」の時間内でレポートの作成を行っている。

これを基盤としてさらに興味関心を持った生徒には博物館の企画交流課、学芸課の先生方のご指導を仰ぎながら、主体的に調査研究活動を深め、その成果を発表することによって学校設定科目「郷土研究」で1単位相当を増加単位として認定するという二段構えの形式を発足以来から踏襲している。

2 博学連携および学校設定科目「郷土研究」のねらい

多量の資料を収蔵し、知識と教養の宝庫である博物館の活用方法にはさまざまな展開が予想されるが、現況として教育課程上「総合的学習の時間」と「郷土研究」で対応している。特に本校「総学」のテーマの柱の一つでもある“地域を知り、その課題に取り組む”という観点において1年次に実施する博物館見学とレポート作成は、その後の実践的深い学びを進めて行く上での布石と位置付けている。また、「郷土研究」では科目のねらいとして、“郷土の文化や歴史、風土に対する関心や探求心を高め、郷土への誇りと文化の形成に進んで参画しようとする態度の育成”を掲げており、博物館学習は両科目において重要不可欠な単元となっている。

私たちが普段の生活の中で何気なく接している文物の価値について再認識する機会は極めて少ない。したがって将来の郷土を担う人材である高校生が、自分たちの足元である山梨の風土に根差した歴史や産業について学ぶことの意義は大きい。県外からの観光客はもちろん海外からも年間二千万人を超える旅行客が訪れ、国際的視野も求められる昨今の教育事情下、地元山梨の自然や歴史などの特性について理解し自らの言葉で語り、アピールすることのできる人材育成は観光県を自負する山梨では特に求められる資質と推察される。加えて山梨で暮らし働くことの誇りや有意性に気づき、長期的なライフプランを伴ったキャリア形成を考えさせる契機となればと捉えている。

3 今後の課題

博物館との連携についてはここに掲げた事業が主なところである。今後も博物館の機能特性を生かし、人文系の教科科目を中心とした授業の展開事例を積み重ねていくところであるが、総合学科や農業科を置く本校においては多彩な科目を有しており、「地域研究」、「山梨の観光」、「グリーンライフ」などの専門科目においても実践的な学びの場を追求していきたいと考えている。

これまでの個々の取組における成果の上に、これらを包括的に構築し、一層の連携強化を推進していきたい。

学校設定科目「郷土研究」の概要

| 教科・科目名 | 学校設定科目「郷土研究」 | | | |
|--|---|--|---|-------------|
| 科目の内容 | <p>1 教科・科目の名称</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科名：「学校外の学修」 ・ 科目名：「郷土研究」 <p>2 教科の目標</p> <p>生徒の能力・適性・興味・関心等の多様化の実態を踏まえ、学習の選択幅を拡大するとともに、自ら学ぶ意欲の向上を図り、生涯にわたる学習の基盤を培うことを目的とする。</p> <p>3 科目の目標</p> <p>郷土の文化や歴史、風土に対する関心や探究心を高め、郷土への誇りと文化の形成に進んで参画しようとする態度を育成する。また、資料の収集、臨地調査、報告書の作成などを通して主体的、計画的に探究する能力と態度を育てる。</p> <p>4 単位数</p> <p>3 5 単位時間に相当する活動内容に対し 1 単位</p> <p>5 対象学年及び学科名</p> <p>全学年 全学科（現状では 1 学年全員を対象としている）</p> <p>6 主たる教材</p> <p>県立博物館所蔵資料、図書館資料、その他発行文書資料</p> <p>7 指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象：学校設定科目「郷土研究」の単位取得希望者 ・ 実施時期：随時（「総合的学習の時間」における博物館見学後は課外活動を原則とし、放課後や博物館での調査活動は夏季休業や週休日を利用して実施する。） ・ 活動の流れ <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> (1)「郷土研究」学習願いの提出 (2)研究テーマの選定 (3)博学連携委員による助言 (4)研究計画の作成 (5)博物館での調査活動 (6)博学連携委員による助言 (7)活動のまとめ、発表・報告書の作成 </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">最低 1 8 単位時間</td> </tr> </table> <p>※単位認定にあたっては、評価は行わず単位の認定のみ行う。</p> <p>※指導時間（3 5 単位時間）の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館における学習指導 1 0 単位時間 ・ 活動発表資料の作成指導 8 単位時間 ・ レポート作成指導 8 単位時間 | <ol style="list-style-type: none"> (1)「郷土研究」学習願いの提出 (2)研究テーマの選定 (3)博学連携委員による助言 (4)研究計画の作成 (5)博物館での調査活動 (6)博学連携委員による助言 (7)活動のまとめ、発表・報告書の作成 | } | 最低 1 8 単位時間 |
| <ol style="list-style-type: none"> (1)「郷土研究」学習願いの提出 (2)研究テーマの選定 (3)博学連携委員による助言 (4)研究計画の作成 (5)博物館での調査活動 (6)博学連携委員による助言 (7)活動のまとめ、発表・報告書の作成 | } | 最低 1 8 単位時間 | | |

学校設定科目「郷土研究」の年間指導計画

| 期 日 | 指 導 内 容 |
|---------------|--|
| 5月24日 | ・ 博学連携出前授業 岡田先生・姫野先生来校 |
| 5月31日 | ・ 1学年「総合的学習の時間」において博物館見学 |
| 6月7日 | ・ 博物館見学レポート作成（1学年全員を対象） ※レポート提出 |
| 6月14日 | ・ 提出・校内博学連携推進委員会 |
| 7月上旬 | ・ 「郷土研究」希望者募集 申請書類の配布 |
| 7月上旬 | ・ 生徒オリエンテーション |
| 8月1日～ (随時) | ・ 博物館での調査活動 |
| 8月4日 | ・ 博物館学芸員との面談 |
| 11月～ | ・ レポートの作成 |
| 2月末日 | ・ レポートの提出 |
| 3月12日 | ・ 博学連携研究成果発表会（レポート発表会） 研究成果の発表をもって単位認定とする |
| 3月20日 | ・ 単位認定申請⇒ 3月の職員会議にて承認 |

※6月7日 博物館見学レポートのテーマ（抜粋）

- 山梨の洪水の歴史
- 古の山梨と現代の甲斐
- 甲府大空襲について
- 山梨その時代をのぞく
- 昔の暮らしについて
- 甲斐の武士について（戦国時代の甲斐国）
- 地方病について
- 江戸時代の城下町
- 甲斐の黒駒
- 山梨を襲った災害
- 若尾逸平の業績

山梨県立博物館の活用方法

はじめに

山梨県立博物館の目指す大きなテーマの一つに「博学連携」があります。博物館と学校が望ましい形で連携、協力を図りながら、子どもたちの教育を進めていこうという取り組みです。子どもたちが郷土の歴史に興味を持ち、郷土への愛着を抱くことを目指し、学校と博物館とが協力して、博物館の「もの」や「ひと」や「情報」を積極的に活用することに努めていきます。

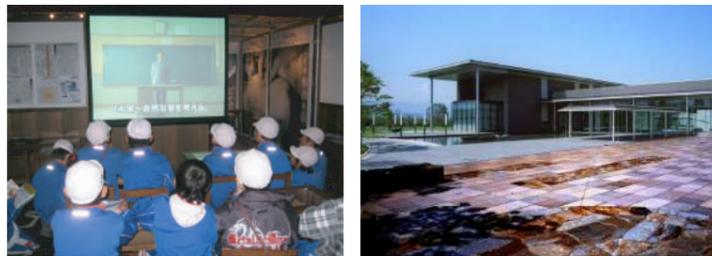
いろいろな活用方法

山梨県立博物館には、以下に示す①から⑤のようにさまざまな活用方法があります。利用についての詳細は当館ホームページをご覧ください。山梨県立博物館（055-261-2631）まで直接お問い合わせください。

①博物館に児童生徒を連れて行く

何といっても生の教材に直接ふれることほど効果的な学習方法はありません。平成22年度には、小学校81校、中学校29校、県立学校29校、合計145校7,200人あまりが来館し、見学や学習を行いました。今年度は昨年度以上に多くの学校が来館しています。

※校長名で観覧料の免除申請を行うと常設展は無料になります。（団体、グループ、学校の課題としての個人見学などいずれも可）



②博物館の「もの」を使ってみる

学校への貸出教材〔ミュージアム・キット〕を多数ご用意しています。

戦国時代キット

鎧兜、火縄銃、太刀

旅姿キット

菅笠（男女）、旅の服装（男）、柳行李

江戸時代キット

武士の服装（袴）、太刀（大小）

町人の服装（男女）、寺子屋本

石臼

実際に使用することができます。昔の道具体験や、食べ物作りなどにご利用ください。

博物館関連書籍

博物館図録や研究紀要、過去に開催した特別展などの図録です。



新しいミュージアムキットが出来ました！
甲斐国関係古代木簡レプリカ4点セット
教科書で学ぶ古代木簡を実際に手にとって学習できます。1200年前の人が書いた文字を子どもたちは解読できるでしょうか？



③博物館の「ひと」を使ってみる

博物館職員が学校におじゃまして〔出前授業〕を行っています。社会科や総合的な学習の時間、校内研究会、PTA研修会などご利用いただいています。費用はかかりません。下記のテーマを参考に先生方のねらいに応じた内容で行いますので、ぜひご相談ください。

出前授業のテーマ例

- 山梨の歴史
- 昔の道具を体験しよう
- 小・中・高生のための古文書講座
- 学校周辺の歴史
- 武田信玄
- 信玄堤
- 富士川舟運
- 戦争関係（甲府空襲、大月空襲）
- 富士山世界遺産関係
- 浮世絵（北斎と広重）
- 甲府城
- 明治40年の大水害
- 甲府班別グループ学習の見所
- 修学旅行事前学習（鎌倉・京都・奈良）
- 職業講話（学芸員の仕事）

※すべて小・中・高、教員、PTAのいずれにも対応します。

写真は、「昔の道具を体験しようー養蚕のしくみと昔の道具ー」の出前授業の様子



④まず先生が博物館に親しんでみる

ティーチャーズクラブに入会するとすべての企画展と常設展が無料で観覧できます。県内の学校（小中高特）、教育機関にお勤めの教職員の方ならどなたでも会員になれます。入会はホームページから申込用紙をダウンロードしてください。

【会員特典】

- 会員証の発行。（入会費・年会費はありません）
- 教員向けの研修会の実施（任意参加）
- 常設展示・企画展示の視察の際、観覧料を免除
- 貸し出し用のミュージアムキット等を優先して貸出

⑤研究会や校内研などによる先生方の視察

博物館では先生方の研修による視察を受け入れています。企画交流課までお問い合わせください。

※その他ご不明な点などがありましたら、お電話等でお問い合わせください。

かいじあむ
YAMANASHI PREFECTURAL MUSEUM
山梨県立博物館

企画交流課
〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田 1501-1
Tel : 055-261-2631 Fax : 055-261-2632
URL : <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>